

国立国語研究所学術情報リポジトリ

A Possible Semantic Change from a Temporal to a Spatial Meaning : Changes in hazakai

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-10-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山際, 彰, YAMAGIWA, Akira メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001612

時間的意味から空間的意味への意味変化の可能性

——「端境」の変遷を通して——

山際 彰

関西大学 大学院生 / 日本学術振興会 特別研究員 (DC2) / 国立国語研究所 共同研究員

要旨

語の意味変化の方向性の一つに、空間的意味から時間的意味へというものがある。これに対して「端境」は、近代では時間的意味で用いられるも、現代では空間的意味での使用が見られる。これが時間的意味から空間的意味への変化に当たるのかどうかについて、類義語の「端境期」と関連付けながら、新聞や議会議録に見られる用例を分析した。その結果、次のことが明らかになった。

- (1) 近代の「端境」は時間的意味を表すことが多かったが、使用され始めてすぐに類義語である「端境期」に勢力を奪われ、ほとんど使用されなくなる。
- (2) 近代と現代では「端境」の使用される位相が異なる。

以上を踏まえると、現代で用いられる空間的意味を表す「端境」は、近代で用いられた時間的意味の「端境」とは異なり、「端境期」から派生した別語であると捉える方が妥当であると考えられる。よって、「端境」は時間的意味から空間的意味への意味変化の事例とはいいがたい*。

キーワード：端境、空間的意味、時間的意味、意味変化、会議録

1. はじめに

語の意味変化には様々な方向性があるが¹、その一つに空間的意味から時間的意味へという方向性が挙げられる。空間的意味と時間的意味が密接に関連していることには早くから言及があり、共時的には柗山 (1992) や砂川 (2000) が空間的意味と時間的意味の両方を持つ多義語について、その時間的意味は空間的意味からの転用であることを述べている。例えば、柗山 (1992) は次のように述べている。

より具体的で認知しやすい「空間 (内の位置関係)」を基本義とする語が、より抽象的な「時間 (上の前後関係)」を表現する際の「モデル」として転用されるということは、人間の認知能力から見て、自然なことと言えるだろう。 (柗山 1992: 197)

* 本稿は、日本学術振興会特別研究員奨励費 (JSPS 科研費 JP17J01634)、および国立国語研究所領域指定型共同研究プロジェクト「議会議録を活用した日本語のスタイル変異研究」(プロジェクトリーダー: 二階堂整) による成果の一部である。なお、本稿は同プロジェクトの「議会議録を活用した日本語のスタイル変異研究」研究発表会 (2017年9月18日、関西大学) および日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究C) 「近現代の新語・新用法および言語規範意識の研究」(研究代表者: 新野直哉) 第二回研究発表会 (2017年8月31日、京都府立大学) での口頭発表に修正を加えたものである。席上で多くの貴重なご意見を頂戴した。ここに記して感謝を申し上げる。

¹ 例えば、専門的な意味から一般的な意味へ、中立的評価の意味からプラス/マイナス評価の意味へといった方向性がある (沖森 2011)。

通時論的には、筆者はこれまで空間的意味から時間的意味を表すようになる語として「最近」や「近々」の変遷について述べてきた²。また、鳴海（2015）が時間的意味発生の類型を考える上で、同様の問題について言及するなど空間的意味と時間的意味の関連性は様々な形で注目されてきた。このように、共時論的にも通時論的にも空間的意味から時間的意味へという方向性は概ね一般的な現象として認められているといえる。一方で、その逆である時間的意味から空間的意味へという方向性については、定延（1999, 2002）や寺崎（2013）で問題提起はされているものの、それが一般的な傾向とみなされているとはいいがたい³。

そこで、本稿では元々は時間的意味を表しながらも、現代において空間的意味での使用が見られる「端境」に注目する。「端境」は（1）のように〈新米と古米の入れ替わりの時期〉を表す語であったが、現代では（2）のように〈空間の境目、境界〉を表す意味での使用が見られる（例文の出典は稿末を参照）。もし、これが時間的意味から空間的意味への意味変化（またはその過程）であるとするならば、「端境」は空間的意味から時間的意味へという一般的な変化の方向性に反する事例であることになる。

- (1) 端境に政府が外米を高く売出したというのも勿論失敗だが今に六千万石の新米が市場に流れ出そうという時こんな高値は全く未曾有で、生活難の声が喧しい時よい加減に捨てておくことはできまい
(大阪朝日新聞 1919年10月15日)
- (2) デートで使ってはいけないうマイナースポット「日本で1番海から遠い地点」。無論山の中なのですが、八ヶ岳・奥秩父・西上州の端境にあるため登山マップはございません。到達しての感想はというと、ワラビしかはえてない(笑)
(Twitter 2017年5月21日)

以上を踏まえて、本稿では新聞や会議録資料から「端境」の用例を通時的に採集・分析することによって、以下の点について明らかにしたい。

- (a) 「端境」はどのような過程を経て現代のような意味を表すようになるのか。
- (b) 「端境」は時間的意味から空間的意味への意味変化の事例といえるか。
- (c) もし (b) がいえるならば、その変化パターンは普遍的なものといえるか。

2. 「端境」の語義

まずは「端境」がどのような語義であるのかを確認しておく。なお、ここからは「端境」の類義語である「端境期」も考察対象とする。(3)は『日本国語大辞典 第二版』(2000-02) (以下、『日国大』)における「端境」の記述、(4)は「端境期」の記述である。

²「最近」については山際（2014）、「近々」については山際（2017）を参照。

³望月（1969）では、奈良時代の用例の観察から、ホドが時間的意味から空間的意味へと意味を広げた旨が述べられている。しかし、空間的意味から時間的意味への意味変化の事例に対し、その逆の事例を挙げることは困難であることから、本稿では空間的意味から時間的意味への方向性が一般的だと考える。

- (3) 新穀収穫の頃、すなわち、新米が古米に代わって市場に出まわり始める九月、十月の頃。また、生糸では春挽（はるびき）糸の出まわり季節と新糸の出まわり季節との境、すなわち、五月、六月の頃。転じて一般に、農産物、生鮮食料品などの新旧収穫物の交代期の意味にも用いる。端境期。

*新しき用語の泉（1921）〈小林花眠〉「端境（ハザカヒ）端境期ともいふ。古米と新米の入れかはる時期」

〔方言〕①境、境目。徳島県 809 ◇はさがい 愛媛県 840 ②間。暇。愛媛県 840

- (4) 端境の時期。また一般に、ものごとの入れ替わりの時期。

*現代術語辞典（1931）「端境期（ハザカヒキ）米・生糸などで、米ならば新米が古米に代って市場に出廻る頃（九・十月）をいふ」

*地を潤すもの（1976）〈曾野綾子〉八・二「弟さんのケースはちょうどその端境期（ハザカヒキ）に当るのかも知れません」

ここから、「端境」が〈新米と古米の入れ替わりの時期〉という語義を有すること、米以外に生糸や農産物について表す場合もあることが確認できる。『日国大』が示す用例から、「端境」は近代以降に使用されるようになったと見られる。(4) に示した「端境期」の記述についても見てみると、語義や初出例の時期が「端境」とほとんど同じであることが注目される。筆者が確認した限りでは、最も早い「端境」の例が『時事新報』（1900）、「端境期」が『神戸新聞』（1911）であり、二語はほぼ同時期からの使用といえる⁴。

ところで、冒頭の(2)のような〈境目、境界〉の意味は、『日国大』では〔方言〕の項目として扱われるに留まる。他に〈境目、境界〉を表す「端境」に言及した辞書があるのかを確認するために現代の主要な国語辞典を参照したが、いずれも「端境期」のみが立項されており、「端境」の項目自体が見られなかった⁵。そこで、辞書には見られない「端境」の語義を現代の用例から補足する。以下の例における「端境」は、いずれも〈境目、境界〉といった意味を表している。ただし、(5)は時期、(6)は抽象的概念、(7)は空間と、何と何の境目を表すのかは用例毎に異なる。そこで、これらを〈境目、境界〉の意味の下位区分としておく。

- (5) 先週を端境に一気にアオリイカモードに突入。波松一浜地から始まり、越前海岸の各磯や港。大げさでなく、至る所でアオリイカの釣果がある。

（朝日新聞 2011年9月16日）

- (6) 戦闘がための刀が次第に美の含有率を高めて象徴的かつ芸術的なモノへと昇華したように、茶の湯もまた、利休の頃の生と死の端境における美学的何事かから、その理念は残したものの芸道へと昇進していった。

（<http://d.hatena.ne.jp/yoshibey0219/20170626/p1> 2017年6月26日）

⁴『時事新報』は龍溪書舎の復刻版（1977刊）、『神戸新聞』は後掲する新聞記事文庫をそれぞれ参照した。

⁵『広辞苑 第六版』（2008）、『岩波国語辞典 第七版 新版』（2011）、『三省堂国語辞典 第七版』（2014）、『新明解国語辞典 第七版』（2012）、『明鏡国語辞典 第二版』（2010）、『新潮現代国語辞典』（2000）の六種を参照した。

- (7) 猛暑地区と冷夏地区の端境で連日ゲリラ豪雨の局地的水害を被っている地域がこちらです (うちはさいわい、しかし徒歩圏内の交差点が通行止めの水浸しだった日も

(Twitter 2017年8月23日)

以上から、本稿では「端境」の意味を(8)のように分類する。このうち、時間的意味といえるのは、A.である。これは何の入れ替わりであるのかを問わず、時間的意味と考えることができる。一方で、空間的意味といえるのは、B-2.である。B-1.は抽象的概念を空間に見立てて〈境目、境界〉という位置関係を表しているとも捉えられるが、本稿ではB-2.のみを空間的意味と見ておく。以降はこの分類に従い、用例を分析する。なお、判定が困難な場合は保留とした。

- (8) A. 入れ替わりの時期…〈時〉

A-1. 新米と古米の入れ替わりの時期…〈時/米〉
 A-2. 農産物の新旧収穫物の入れ替わりの時期…〈時/農産物〉
 A-3. ものごと一般の入れ替わりの時期…〈時/ものごと〉

時間的意味

- B. 境目、境界…〈境〉

B-1. 時間や抽象的概念の境目、境界…〈境/概念〉

B-2. 空間の境目、境界…〈境/空間〉

空間的意味

3. 戦前における「端境」と「端境期」

ここからは「端境」の用例を通時的に採集し、それらを意味毎に分類することで、「端境」がどのような過程を経て現代のような意味を表すようになったのかを明らかにする。「端境」は近代以降から使用されるようになったこと、現代の辞書には〈境〉を表す「端境」が取りあげられていないことを踏まえて、近現代を考察の対象とする。以下、これらを戦前と戦後の二期に分け、各時期における「端境」の使用状況を見ていきたい。

3.1 戦前における「端境」

まずは、戦前の「端境」について述べる。「端境」はそもそも使用頻度が低い専門語であり、用例を見出すことが困難である⁶。この時期の辞書を参照すると、『モダン辞典』(1930)が「(経)新米が古米に代つて市場に出回る頃」、『新かくし言葉辞典』(1930)が「相場用語 古米期と新米期の境」と記すように、経済関連の用語であることが示唆されている⁷。そこで、これらの記述を参考に、明治～戦前における経済関係の記事を収載する「神戸大学附属図書館 デジタルアーカイブ【新聞記事文庫】」(以下、新聞記事文庫)を調査対象とした⁸。今回はこの検索機能を利用し、

⁶ 国立国語研究所の近代雑誌コーパスには用例が見られなかった(『明六雑誌コーパス』、『国民之友コーパス』、『太陽コーパス』、『近代女性雑誌コーパス』)。検索には全文検索システム『ひまわり』[Ver.1.5.3]を使用)。

⁷ その他、『大言海』(1932-37)に「取引上ノ語。」という記述が見られる。なお、『モダン辞典』(1930)と『新かくし言葉辞典』(1930)は『近代用語の辞典集成』(1995-97)所収のものを参照した。

⁸ 新聞記事文庫とは神戸大学経済経営研究所によって作成された、明治末から昭和45年までの新聞切抜資料の電子化テキストが閲覧可能なWebサイトである。本稿では、記事件数が十分な1912-1942年を調査範囲とした。

計 280 例の用例を得た⁹。それらを意味別に示したものが表 1 である。

表 1 戦前における「端境」の意味分類表—新聞記事文庫—

新聞記事文庫	入れ替わりの時期			境目, 境界		保留	合計
	米	農産物	ものごと	概念	空間		
1912-1921 年	76	18	—	—	—	7	101
1922-1931 年	78	36	—	2	—	6	122
1932-1942 年	30	23	3	—	1	—	57
合計	184	77	3	2	1	13	280
	264			3			

表 1 から、戦前における「端境」の大半が〈時〉を表す意味で用いられていることがわかる。その中で最も大きい割合を占めているのは、次のような〈時/米〉を表す用例である。

- (9) 故に来年の端境までには今後大に外国米を輸入するの必要あり
(時事新報 1912 年 12 月 4 日) 〈時/米〉
- (10) 巨大な独占的事業の間ですら統制は容易でないのに全国五百万戸の零細農が全然無計画で作り出す大量の米をいきなり上から統制しようというのだから注文は難かしい。何しろ今春の政府推算では端境に三万石は不足するはずだった
(大阪朝日新聞 1932 年 11 月 28 日) 〈時/米〉

それに次いで多く見られるのは、(11) や (12) のような生糸や砂糖、麦などの〈時/農産物〉を表す意味の「端境」である。〈時/ものごと〉を表す例はわずか 3 例で、全て同一の記事に見られることから、当時の一般的な意味とはいいがたい。

- (11) 而して一旦輸出市場に集散せられたるものにして更に以上各機業地に輸送せらるるもの少きのみならず目下原料糸は新古出廻りの端境にあることなれば今後の供給は新糸に待つの外なきが如し
(時事新報 1914 年 5 月 21 日) 〈時/農産物〉
- (12) 殊に製粉原料たる小麦は端境まで三四ヶ月あり
(中外商業新報 1918 年 2 月 25 日) 〈時/農産物〉

これらの時間的意味を期間別に見てみると、当初は〈時/米〉が大半であったのが、しだいに〈時/農産物〉の割合が増え、その後に〈時/ものごと〉を示す例が登場していることがわかる。この推移を示したものが図 1 である。このことから『日国大』の記述にあるように、「端境」の時間的意味は徐々にその指し示す対象を拡大していったと考えられる。

⁹ 検索条件は「端境 NOT 端境期 NOT 端境季」とした。「端境時」という例がわずかに確認されたが、考察の対象外とした。1 記事に複数の例がある場合はそれぞれを 1 例として数え、発行年月日や新聞名が不明の記事や見出し中の例は除いた。

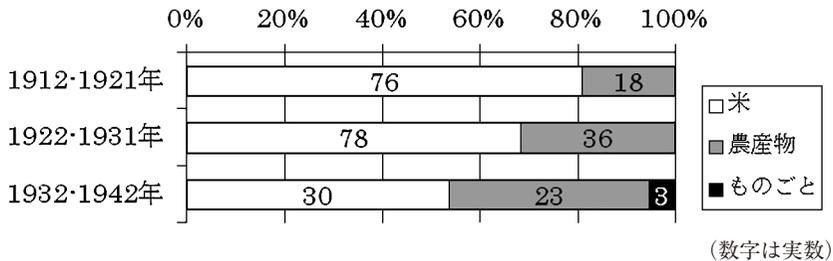


図1 時間的意味を表す「端境」が示す対象の推移—新聞記事文庫—

一方で、〈境〉を表す例はごくわずかであった。そのうち、空間的意味を表す唯一の例が(13)である。ただし、原文画像に「たんきやう」のルビがあり、「端境(はざかい)」の確例とはいえないものであった¹⁰。先掲の『新かくし言葉辞典』(1930)のように、〈境/概念〉の意味を記載する辞書が一部にあるが、実際にはほとんど使用されていなかったといえる。

- (13) 紅軍部隊が広西北端境を横断して再び湖南省内に侵入するや追剿軍各部隊は第二路各師は東安より武岡に進発し、〈略〉 (満州日報 1935年1月25日) 〈境/空間〉

3.2 戦前における「端境期」

では、「端境」の類義語である「端境期」の使用状況はどうだろうか。2節では、現代の主要な国語辞典には「端境」は立項されておらず、「端境期」のみが立項されていることに言及した。戦前の辞書類には、「端境」を載せる辞書と「端境期」を載せる辞書のどちらも見られる。例えば、「端境」は『英語から生まれた新しい現代語辞典』(1925)に「其年収穫せる米が運び出される前暫くの時期。古米と新米の入れかはりの時期。」、『かくし言葉の字引』(1929)に「古米と新米の転換季をいふ。」といった記述が見られる。対して、「端境期」は『最新百科社会語辞典』(1933)に「〔経〕新米が古米に代つて市場に出回る頃(九・十月)」、『新聞新語辞典』(1933)に「米・生糸などで米ならば新米が古米に代つて市場に出回る頃」などとある。これらを比較すると、表現の差こそ見られるものの、どちらの語積も似通っていることがわかる。また、『新しき用語の泉』(1922)の「端境」の項に「端境期ともいふ。古米と新米の入れかはる時期。〈略〉」とあるように、当初から二語の意味はほとんど同じであったといえる。

このように、そもそも「端境」と「端境期」が使用され始めたと思われるのはほぼ同時期で、意味も大差ないものであった。そのため、「端境」はある時期から「端境期」に取って替わられたものと推測される。そこで、新聞記事文庫で二語がそれぞれどの程度使用されているのかを確認する。図2は、「端境」と「端境期」の検索結果をそれぞれ記事全体の件数で割り、使用率と

¹⁰ なお、『日国大』には「端境(たんきやう)」は立項されていない。明治期の国語辞書である『言海』(1889-91)、『日本大辞書』(1892-93)や漢語辞書である『新令字解』(1868)、『漢語字類』(1869)、『必携熟字集』(1879)、『新編漢語辞林』(1904)においても同様である。

して年毎に示したものである¹¹。

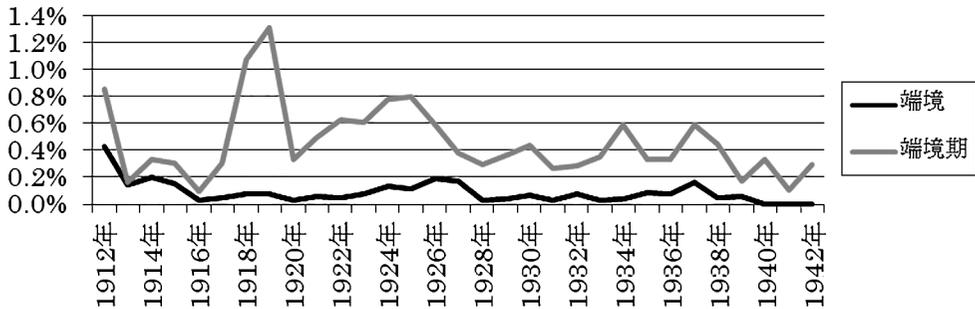


図2 「端境」と「端境期」の年別出現率推移—新聞記事文庫—

図2から、1910年代の段階で既に「端境」よりも「端境期」の出現率が高いことがわかる。ただし、1917年までは二語の出現率に大きな開きは見られない。それらが一定の開きを保つようになるのは、「端境期」の出現率が急激に高くなる1918-1919年以降である。では、なぜこの時期に「端境期」の出現率が急激に高くなっているのだろうか。これには1918年に勃発した米騒動が関係している。この年は特に米が不足し、米価が急騰した。米不足によって米価が上昇しているにもかかわらず、〈新米と古米の入れ替わりの時期〉に至る直前は米が少ないため、米価はさらに上がる。結果、それに対する不安や不満が米騒動という形で表面化することとなった。この一連の出来事の報道で積極的に「端境期」が用いられた結果、この時期の出現率が急激に高くなったのだと考えられる。『新聞新語辞典』（1933）、『新聞語辞典』（1933）のような「新聞語」を冠する辞書が「端境期」のみを載せているのもこの反映と見られる。「端境期」が積極的に用いられたのは、空間的意味を想起させる「端境」という文字列よりも、「-期」を伴う「端境期」の方が、字義から時間的意味を表す語であると認識されやすかったためであると思われる¹²。

- (14) 近時米価の昂騰頗る激甚を極め既に昨年暴動当時の最高値段を突破し向後端境期に近づくに従い如何なる狂騰相場を現出するやも計り難き状勢を招来し民心洶々として其堵に安んぜず生活上の脅威就中国民の中堅たる中流階級の之が為に蒙りつつある困難言語に絶するものあり
(大阪時事新報 1919年7月1日)

4. 戦後における「端境」と「端境期」

では、ここからは戦後の「端境」について述べる。戦後の「端境」も戦前と同じく使用頻度が極めて低く、用例を見出しがたい。例えば、朝日新聞の記事データベース『聞蔵II ビジュアル』に10例、毎日新聞の記事データベース『毎索』に11例で、国立国語研究所の『現代日本語書き

¹¹ 例えば、1912年の場合、「端境」が19件で記事全体が3991件であるため、0.48%となる（小数第三位を四捨五入）。

¹² また、この時期を含む1900-1930年頃は「過渡期」や「青年期」、「転換期」といった二字漢語＋接尾辞「-期」からなる語の使用が見られ始める時期でもある。これについては稿を改めて論じたい。

言葉均衡コーパス』ではわずか2例が確認されるのみである¹³。

そこで、以下では国会（帝国議会も一部含むが、一括して示す）と地方議会の会議録に見られる用例を中心に考察を進める。国会会議録は、分量の豊富さと閲覧の容易さという点に加え、議題の中に農業や経済の話題が含まれることから、調査資料にふさわしいといえる。用例採集には、国立国会図書館が提供する国会会議録検索システムを利用した。今回はこの検索機能を用いて、1946-2015年を範囲として用例を採集した¹⁴。地方議会会議録は、国会会議録に近い性質を持ち、方言を反映する資料として用いた。2節で述べたように、『日国大』には「方言」の項目で〈境〉を表す意味が記されている。その意味を表す「端境」の使用に地域的偏りがあるかどうかを確認するために調査対象とした。用例採集には全国各自治体の地方議会会議録検索システムを利用し¹⁵、調査範囲は各検索システムの検索可能期間とした。最も古い年は宮城県議会会議録と新潟県議会会議録の1947年、最も新しい年は調査時点である2013年である（使用した地方議会会議録一覧は稿末の資料を参照）。なお、「端境」については必要に応じてその他の資料も取りあげる。

4.1 戦後における「端境」

4.1.1 議会会議録に見られる「端境」

まずは、国会会議録の「端境」について見ていく。今回採集した用例は77例であり、それらを意味別に分類したものが表2である。

表2 戦後における「端境」の意味分類表—国会会議録—

国会会議録	入れ替わりの時期			境目, 境界		保留	合計
	米	農産物	ものごと	概念	空間		
1946-1955年	9	6	8	3	—	2	28
1956-1965年	5	—	3	3	1	1	13
1966-1975年	3	7	1	1	1	—	13
1976-1985年	1	—	—	4	—	1	6
1986-1995年	1	—	—	1	—	1	3
1996-2005年	1	—	—	5	—	—	6
2006-2015年	—	—	—	7	1	—	8
合計	20	13	12	24	3	5	77
	45			27			

¹³ 『聞蔵Ⅱビジュアル』の調査期間は1985/01/01-2017/12/31、対象紙誌名は「朝日新聞」、検索条件は「端境 # 端境期」とした。『毎索』の調査期間は1873/01/01-2017/12/31（ただし、明治～戦前の例は見られず、最も古い例は1990年の例）、検索条件は「端境 NOT 端境期（見出しと本文に含まれる文字列を検索）」とした。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』[Ver.1.1]の検索にはコーパス検索アプリケーション「中納言」[Ver.2.1.1]を使用し、短単位検索で検索対象は「全て」、検索条件は「語彙素：端境」とした。

¹⁴ 帝国議会会議録検索システムを用いた1946-1947年の結果を含む。ただし、当該期間における「端境」の用例は1例のみであった。

¹⁵ 今回は、500の自治体を対象とした（都道府県議会：44、市議会：433、区議会：23）。十分な検索機能を有することを第一条件とし、その中から人口が5万人以上の自治体であることを目安に選定した。また、各都道府県から最低3箇所以上の自治体を選定するようにした。

目を引くのは、用例数の少なさである。同じ調査範囲における「端境期」が1987例であることを考えると、戦前に確認された「端境期」が「端境」を凌駕する傾向がさらに進んだものといえる。しかし、用例は少ないながらも戦前との違いが見て取れる。例えば、戦前の調査では〈時／米〉を表す例が常に全体の半数以上の割合を占めていたが、表2ではどの期間においても半数を下回っている。また、〈時／農産物〉や〈時／ものごと〉の例は1970年代半ば以降には見られなくなっている¹⁶。以下に用例を示す。

(15) そういうふうにいたしますと、ここにありますように、来年の端境の古米の持ち越しは七十六万トンになるわけです。(国会・農林水産委員会(1960):須賀賢二)〈時／米〉

(16) リンゴやミカンはちょうど端境でございまして、あまり大きな影響はございませんでしたが、いずれにいたしましても、東京市場の入荷のうち、いま申しました鉄道のシェアの分がほとんど大きな影響を受けております。

(国会・予算委員会(1973):磯崎勲)〈時／農産物〉

(17) 又機構を切り替えいたしますその端境の際におきまして、非常な出炭の減少を来たすのではないか。かように私は考えるのであります。

(国会・本会議(1947):大屋晋三)〈時／ものごと〉

〈境〉を表す「端境」に注目すると、戦前にはほとんど見られなかったのに対し、国会会議録ではこの意味での使用が少なくない。1970年代半ば以降の「端境」は〈境〉を表す意味で使用されることが相対的に多くなっているほか、1990年代半ば以降には時間的意味よりも高い割合で用いられている。その内訳を見ると、(18)や(19)のような〈境／概念〉を示す例が目立ち、(20)のように〈境／空間〉を示す例は限られていた。

(18) 幽霊人夫は申訳ございませんが、年度の端境になりますと、四月一日から仕事を続けてやるという場合の操作に、そういう事情があつたということは、私は現場にもやむを得ぬ事情があつたのではないか、別にひいきするわけではございませんが……。

(国会・行政監視特別委員会(1951):中田政美)〈境／概念〉

(19) その三点が、言ってみれば、いわば日常と非日常の端境だということでございますね。

(国会・財務金融委員会(2003):植田至紀)〈境／概念〉

(20) 私の地元は大阪府の一番北なんです。ちょうど町と山の端境というか、町と山に両方重なるところの、摂津の国の北側で北摂という地域がほぼ私の選挙区なんですけれども、すごいんです、最近の雨が。(国会・国土交通委員会(2015):足立康史)〈境／空間〉

では、地方議会会議録ではどうだろうか。今回、地方議会会議録から採集した「端境」の用例は250例であった。その結果をまとめたものが表3である。

¹⁶ 1946-1955年に〈時／ものごと〉が8例見られるが、その発言者数は4である。すなわち、同一発言者による複数発言が用例数の多さにつながっており、この時期に〈時／ものごと〉が増加したことを意味する訳ではない。

表3 戦後における「端境」の意味分類表—地方議会議録—

地方議会議録	入れ替わりの時期			境目, 境界		保留	合計
	米	農産物	ものごと	概念	空間		
1998年以前	—	2	7	5	9	2	25
1999-2003年	—	—	3	28	13	4	48
2004-2008年	—	4	7	45	33	9	98
2009-2013年	—	6	9	33	26	5	79
合計	0	12	26	111	81	20	250
	38			192			

同じ調査範囲における「端境期」が3156例であることを考えると、国会議録の調査と同様、やはり用例自体は少ないといえる。しかし、その中で注目されるのは、これまでの調査では必ず使用が確認されていた〈時/米〉を表す例が1例も見られない点である。農産物やものごと一般についても用例は少なく、時間的意味が総じて少ないという結果が表れている。

- (21) ジャガイモは、今までは市内産のジャガイモはどうしても春先には端境になってしまっなくなる。
 (稲城市議会〔東京〕・定例会(2008):岩佐いづみ)〈時/農産物〉
- (22) そうすると、地方自治法でいうところの普通公共団体の長の任期4年とするところとの兼ね合いでいえば、せんだって一般質問出ていましたが、要するにその団体の長が端境にある分の分においては、何ら問題はないわけですが、要するに端境にあるときの対応というものをどうするのか。
 (白井市議会〔千葉〕・定例会(2004):江田健治)〈時/ものごと〉

一方で、用例の大多数を占めているのが次のような〈境〉の「端境」である。国会議録では大半が〈境/概念〉を表すものであったが、地方議会議録では〈境/空間〉の例も多数見られる。

- (23) ただ、前段で申し上げましたように、虚弱な方、元気な方の端境にある方々をどう手助けするかという質問ですので、その段階のところの方々に、例えば75歳以上で結構です。
 (薩摩川内市議会〔鹿児島〕・定例会(2012):川添公貴)〈境/概念〉
- (24) 同時に、そういう入り組んだ場所だからこそ、三島市と函南町という端境を越えて、今は広域行政組合を結成しまして、保育園などは一緒に三島市と函南町をやっているという現実があるわけでございます。
 (三島市議会〔静岡〕・定例会(1999):小池政臣)〈境/空間〉
- (25) まず、ちょうどこの資料を見ましたら、例えば常盤町とか、あるいは新堂のほうは、ちょうど大和高田市との端境、あるいは桜井市との端境になりますので、檀原市が規制しても、桜井市のほうが緩やかだったらいかんし、同程度規制をかけないといかんと思いますけども。
 (檀原市議会〔奈良〕・定例会(2011):榎本利明)〈境/空間〉

では、これらの例の使用状況に地域的な偏りがあるのかどうかを確認する。表4は、〈境〉を

表す「端境」の分布を地域別に示したものである¹⁷。今回用いた地方議会会議録は便宜上、人口が多い自治体を中心に選択したため、大都市の多い関東と近畿の用例数が多くなる。それを考慮すると、〈境〉を表す「端境」は用例数の多寡はあるものの、特定の地域（例えば、『日国大』に「方言」の記載が見られた中国・四国地方）にのみ用いられている訳ではないことがわかる。

表4 「端境」の地域別使用数—地方議会会議録—

	北海道・東北	中部	関東	近畿	中国・四国	九州・沖縄	合計
概念	10	17	36	38	3	7	111
空間	12	12	33	15	6	3	81
合計	22	29	69	53	9	10	192

4.1.2 その他の資料に見られる「端境」

では、会議録以外の資料に見られる「端境」はどうだろうか。4節の冒頭で述べたように、新聞記事データベースや『現代日本語書き言葉均衡コーパス』からはわずかな用例しか見出せなかった。そこで、上記とは性質の異なる資料を確認すると、特定の文章で「端境」が使用されていることが明らかになった。特に使用が目立つのが、民俗的な内容に関する文章である。(26)のように、「結界」や「注連縄」、あるいは「妖怪」といった語とともに〈境〉を表す「端境」が用いられている¹⁸。こうした文脈の中では、「端境」が「境」や「境界」を古めかしたい方として選択されているようである。また、理工系の学術的文章にも「端境」の例が散見される。いずれも「端境領域」の形で〈境〉を表しており、慣用化した表現になっているものと推察される。

(26) 魔や禍が簡単に往来できないように人は注連縄（しめなわ）をはり 祠を建てて聖なる領域と俗なる領域を分け秩序を維持するために区域を作って 禁足地になっているところもあるようです こういった場所を『結界』（けっかい）や『端境』（はざかい）といったりします
(<https://hisamitsu.exblog.jp/23900931/> 2014年12月20日) 〈境 / 空間〉

(27) 神によって、常世と現世の端境の違いがあるのだろうか。
(Twitter 2015年12月5日) 〈境 / 空間〉

(28) この波長領域は電波と光の端境領域であり、今まで適切な、例えばレーザーのような、光源や検出器が少なかったため、その進歩は他の分野に比べて緩やかであった。
(大竹・猿倉 2002: 360) 〈境 / 概念〉

(29) 一方、海と陸の端境領域に暮らす鳶や鷹のような猛禽類の翼端はバサバサの翼端を持っている。これは翼端渦を拡散し、翼端渦によって発生する誘導抵抗を減らす効果があると考えられている。
(伊藤 2014: 31) 〈境 / 空間〉

¹⁷ 地方議会議員は必ずしも自身が所属する議会の地域出身であるとは限らない。しかし、竹安（2004）で示されている地方議会議員の出生地と現在の居住地のデータを元に計算すると、9割近い議員の出生地が現在の都道府県と一致することになる。よって、本稿では議会の地域をもって「端境」の使用地域とみなす。

¹⁸ 民俗学用語である可能性も検討したが、管見の限りでは民俗学関係の学術論文で〈境目、境界〉を表す場合、「境界」が用いられている。また、漫画やウェブ小説などにも使用が見られることから、そうしたサブカルチャーの影響で〈境〉を表す「端境」がブログやTwitterに散見される可能性も考えられる。

一方で、ブログや Twitter では特に専門的な内容ではない文章においても〈境〉を表す「端境」の例が散見される。以下の例は、いずれも日常的な文章の中で用いられたものである。近代の「端境」は農業関係や経済関係の文脈に偏って使用されていたが、現代の「端境」は民俗関係や理工関係という近代とは異なる分野で使用されるだけでなく、こうした日常的な文章にも使用が見られるという点で差が見られる。

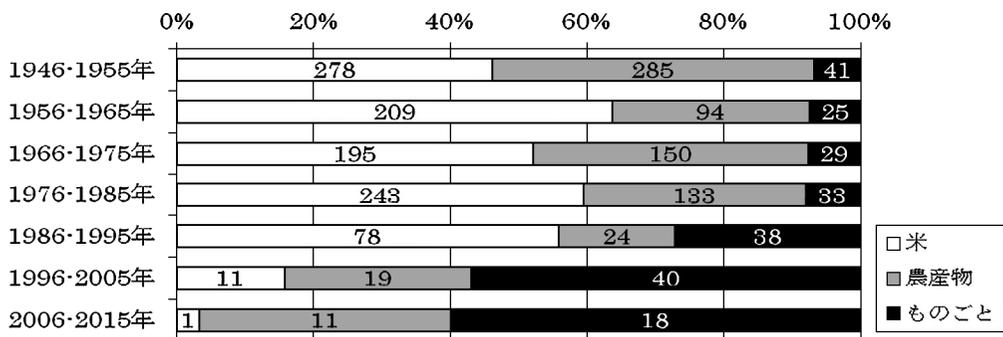
(30) 月に一度のランチ会、祝3周年。記念すべき今回のお店は、米子市郊外、南部町との端境付近、こんもりとした小山の上の住宅地の中でひっそりと開いている cafe & 美容室 はななみ (<http://blog.zige.jp/gegegesanin/kiji/708749.html> 2014年9月26日) 〈境 / 空間〉

(31) PC が開けられず、仕事も出来んし。正気と狂気の端境に居ります。
(Twitter 2018年2月24日) 〈境 / 概念〉

(32) あの辺り、渋谷、中野、杉並の端境を通る不思議なエリアですよ。
(Twitter 2015年11月23日) 〈境 / 空間〉

4.2 戦後における「端境期」

続いて、戦後の「端境期」について述べる。「端境」と同じく、国会会議録を用いて用例採集を行ったところ、1987例の「端境期」が確認された。年を追う毎に「端境期」の用例数がしだいに減少しており、特に1990年代後半以降の減少が顕著であることが図3からわかる。また、「端境」で確認された〈米〉→〈農産物〉→〈ものごと〉へという傾向が「端境期」にも見て取れる。



(数字は実数。保留32例を除く)

図3 「端境期」が示す対象の推移—国会会議録—

ところで、図3を見ると、戦後すぐの時期に〈時 / 農産物〉の「端境期」が目立つことに気付かされる。この時期の「端境期」は、(33)のように「大端境期」と「中間端境期」にいい分けられることが多い。「大端境期」とは、主食となる米・甘藷の収穫直前時期である9-10月頃を指し、「中間端境期」とは、麦・馬鈴薯の収穫直前期である4-6月の時期を指す。つまり、この時期には主食が尽きることが問題とされ、その議論の中で「端境期」が多用されているのである。

(33) その間中間 端境期として、麦、馬鈴薯が出る前の時期が重要な時期であります。それか

らその次に甘藷並びに新米が出る前のいわゆる大端境期の時期が、これまたむつかしい時期であります。(帝国議会・決算委員会 (1947)：楠見義男)

その戦後すぐの時期を過ぎると、〈時/米〉が中心の時期が続くという戦前と同じ傾向に戻る。これが1990年代後半に至って用例全体が激減するようになると、一転して(34)のような〈時/ものごと〉が中心となる。〈時/ものごと〉の用例数は他の年代と大きく変わる訳ではないことから、単に〈時/米〉の表現自体が減少しているものと思われる。その理由としては、米の入れ替わりの時期における米の流通量の減少が、戦前や戦後すぐの時期ほど逼迫した問題にならなくなったことが考えられる。図4のように、米の消費量は1960年代前半をピークとして減少を続けており、その影響が徐々に「端境期」の使い方にも影響を与えたと思われる。

- (34) 具体的に、これを民間から借り入れるとか、短期ということですから、予算の端境期とかそういうつなぎ資金程度というふうに考えられているのかとも思いますけれども、〈略〉(国会・大蔵委員会 (1999)：並木正芳)

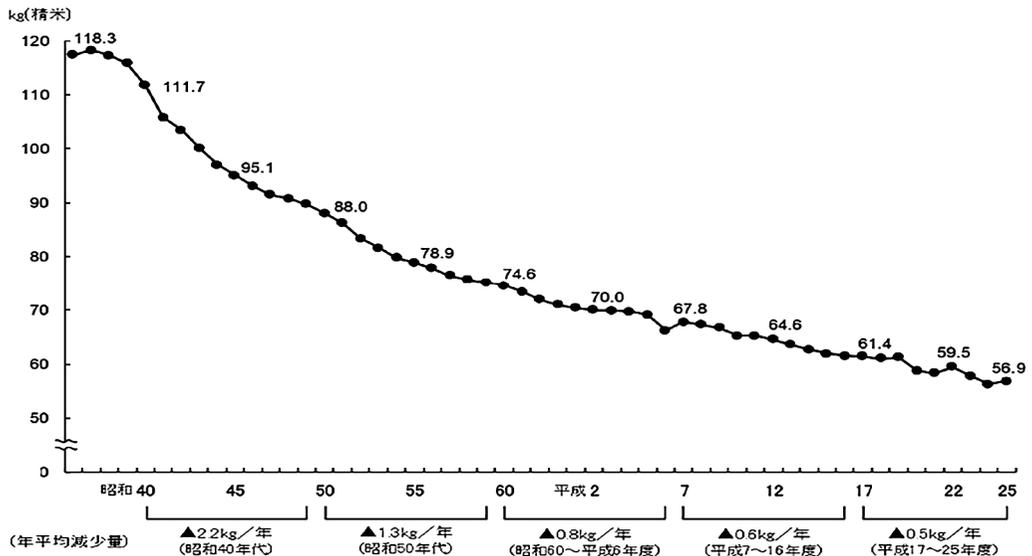


図4 米の年間1人あたりの消費量の推移¹⁹

〈時/米〉から〈時/農産物〉や〈時/ものごと〉への拡大は地方議会会議録にも見られる。特に近年では、〈時/ものごと〉は公共事業に関する例が多い。こうした入れ替わりの対象の拡大は平成以降に顕著であり、国会会議録に見られる流れと軌を一にしている。

- (35) なお、繰越明許は年度当初の工事の端境期対策として有効な側面を有していますことから、

¹⁹ 「米をめぐる状況について」(平成27年3月, 農林水産省)(http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/kome_antei_torihiki/pdf/sankou1_150310.pdf 2018年3月12日確認)のp.1左図による。

平成 10 年度より 12 月議会においてその一部の設定をお願いしているところです。

(石川県議会〔石川〕・産業委員会 (2003)：中西吉明)

5. 「端境」における時間的意味から空間的意味への意味変化の可能性

ここまで、近代以降における「端境」の使用状況について見てきた。それらをまとめると、次のようになる。

- (36) 戦前の「端境」は時間的意味、特に〈新米と古米の入れ替わりの時期〉を表すことが多かったが、やがてその対象を農産物やものごと一般へと拡大させる。戦後には時間的意味での使用が減り、〈境目、境界〉を表す意味が中心になる。
- (37) 「端境」は近代から使用され始めるが、使用され始めてすぐに類義語である「端境期」にその勢力を奪われ、1918 年の米騒動を契機にそれが決定的になる。

「端境」は、元々〈新米と古米の入れ替わりの時期〉を表す語であった。それが、徐々にその対象を拡大させ、農産物やものごと一般に関しても用いられるようになる。一方で、「端境」とほぼ同じ時期から「端境期」が台頭する。時期を表す接尾辞「-期」を含む「端境期」の方が文字列から語義を想起しやすいために、「端境」はその勢力を奪われる。その後、方言として使用されていた〈境目、境界〉の意味で使用されることが中心となり、現在に至る。このように、「端境」は類義語である「端境期」に勢力を奪われたことによって、時間的意味から空間的意味への意味変化を遂げたように見える。

しかし、これには疑問が残る。「端境」は元々専門的な語であった。そのため、新聞のような公的な資料に用例が見られる反面、小説や雑誌にはほとんど見られない。一方、現代の「端境」は新聞や国会会議録といった公的な資料よりもブログや Twitter に散見される。地方議会会議録にも一定数用例が見られるが、二階堂ほか(2015)によると、地方議会会議録はセミフォーマル(かしまった場面とくだけた場面の中間)の場面を含むことから、全体として見ても新聞や国会会議録よりもやや公的な度合いが低い資料であると見られる。すなわち、近代と現代の「端境」では使用される位相が異なるのである。「端境」は近代～現代で一貫して使用頻度が低いため、一般的な語として定着したことによって使用場面が変化したとも考えにくい。

以上を踏まえると、現代の〈境目、境界〉を表す「端境」は、近代の〈新米と古米の入れ替わりの時期〉を表す「端境」と同語形の別語であるという可能性が考えられる²⁰。つまり、「端境」がほとんど使用されないために生まれた空白に対し、人々の間で「転換期—転換」といった「時期—ものごと」の対応関係から「ものごとの入れ替わる境目の時期—(ものごとの入れ替わる)境目」という類推が働いたのではないだろうか(図 5)。その結果、新語として〈境目、境界〉の「端境」が生まれたと考えられるのである。

²⁰ 小野(2005)では、一見すると不自然な意味変化に見える「無念」について、「名付け」が異なることを根拠に同一語形の別語であると解釈している。本稿では、語の成り立ちや使用される環境が異なることを別語である根拠としたが、不自然な意味変化に見える語を別語として解釈し直すという点では同趣旨である。

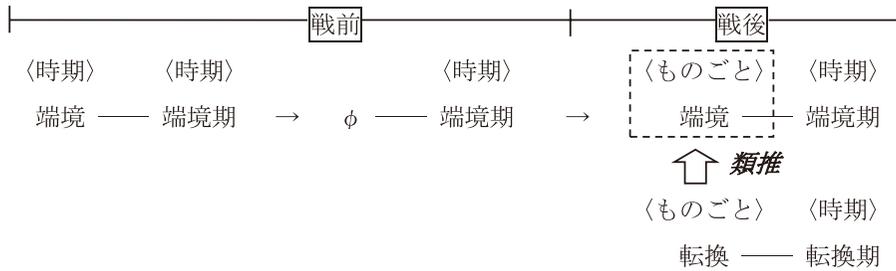


図5 〈境〉を表す「端境」の発生過程

例えば、現代のブログには (38) のような解釈が見られる。こうした民間語源的な発想から〈境目, 境界〉を表す「端境」が生まれ、ブログや Twitter などに用いられるようになったのではないだろうか。そもそも「端境」が空間的意味を想起させやすい文字列であったことも、(元々の「端境」を知らずに) 新語のように用いられる際の支えになったと考えられる。現代の主要な国語辞典が「端境」を載せていない中で、元々の意味と異なる意味で用いられている現代の状況は〈境目, 境界〉の「端境」が一種の新語であることを示しているといえる。

- (38) さて、端境（はざかい）ですが、端（は）は、“はし”と読み、まっすぐでかたよらない、きちんとしてただし、物のはし etc. の意味があります。また、境（ざかい）は、モノとモノとが接するところ、境界、物事の分かれ目 etc. の意味があります。即ち、端境（はざかい）とは、一方から一方へ移りゆくときの境界を意味するようです。

(<https://ameblo.jp/kdoba2716/entry-12268568183.html> 2017年4月24日)

このように、〈境目, 境界〉の「端境」が〈新米と古米の入れ替わりの時期〉を表す「端境」とは別語であるとする、これは意味変化とはいえないことになる。字義としては空間的意味に捉えられるその文字列と、それに対応する「端境期」という語の存在が重なったことで、「端境」は時間的意味から空間的意味への意味変化のような振る舞いを見せることになったのである。

6. おわりに

以上、本稿では「端境」の変遷を通して時間的意味から空間的意味への意味変化の可能性について考察した。ここで、冒頭の問いについて今一度検討したい。

- 「端境」はどのような過程を経て現代のような意味を表すようになるのか。
- 「端境」は時間的意味から空間的意味への意味変化の事例といえるか。
- もし (b) がいえるならば、その変化パターンは普遍的なものといえるか。

まず、(a) についてはどうか。「端境」は〈新米と古米の入れ替わりの時期〉を表すが、すぐに「端境期」に取って替わられる。「端境」がほとんど用いられずに「端境期」のみが用いられる中で、元の「端境」の存在を知らない人々が「転換期—転換」のような関係性を「端境期—端

境」に当てはめることで〈境目, 境界〉の意味を有する現代の「端境」が生まれることになる。(b)については, 上記の経緯から現代の「端境」は語形としては既に存在していたものの, 別語として再生産されたものといえる。よって, 時間的意味から空間的意味への意味変化の事例とはいいがたい。(c)に関しても, (b)がいえないため普遍的であるとはいえないことになる。ただし, 「端境」が意味変化を起こしたと仮定しても結論は変わらない。5節で述べたように, 「端境」が時間的意味から空間的意味への意味変化(のように見える現象)を起こしたのは, 「端境」が空間的意味にも解釈可能な文字列であり, かつ「端境期」という対応する時間的意味の語があったことによる。これと同様に, 「X期—X」という対応関係にあって「X」が時間的意味を表し, かつ字義から空間的意味を想起させる語, というものは想定しがたい。よって, 同一の変化パターンによって意味変化が活発に起こるとはいえない。

空間的意味から時間的意味への意味変化を見せる語の例が多数挙げられる一方, その逆の例を挙げることは困難である。この点で, やはり空間的意味から時間的意味へという方向性は意味変化における一般的な方向性として妥当であるといえる。なお, 〈境目, 境界〉を表す「端境」の類義語である「境」や「境目」, 「境界」との関係については今後の課題としたい。

参考文献

- 望月郁子 (1969) 「類義語の意味領域—ホドをめぐる—」『国語学』78: 34-51.
 初山洋介 (1992) 「多義語の分析—空間から時間へ—」カッケンブッシュ寛子・尾崎明人・鹿島央・藤原雅憲・初山洋介 (編) 『日本語研究と日本語教育』185-199. 愛知: 名古屋大学出版会.
 鳴海伸一 (2015) 「時間的意味発生過程の類型」『日本語における漢語の変容の研究—副詞化を中心として—』265-287. 東京: ひつじ書房.
 二階堂整・川瀬卓・高丸圭一・田附敏尚・松田謙次郎 (2015) 「地方議会会議録による方言研究—セミフォーマルと気づかない方言—」『方言の研究』1: 299-324.
 沖森卓也 (2011) 「ことばの変化」沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子 『図解日本の語彙』82-89. 東京: 三省堂.
 小野正弘 (2005) 「同語か, 別語か?—「無念」の語史を通して—」近代語研究会 (編) 『日本近代語研究 4』17-30. 東京: ひつじ書房.
 定延利之 (1999) 「空間と時間の関係—『空間的分布を表す時間語彙』をめぐる—」『日本語学』18(8): 24-34.
 定延利之 (2002) 「時間から空間へ? 〈空間的分布を表す時間語彙〉をめぐる—」生越直樹 (編) 『対照言語学』183-215. 東京: 東京大学出版会.
 砂川有里子 (2000) 「空間から時間のメタファー—日本語の動詞と名詞の文法化—」青木一郎・竹沢幸吉 (編) 『空間表現と文法』105-142. 東京: くろしお出版.
 竹安栄子 (2004) 「地方議員のジェンダー差異—「2002年全国地方議員調査」結果の分析より—」『現代社会研究』7: 99-118.
 寺崎知之 (2013) 「時間・空間表現の語彙分類について—空間的分布と頻度副詞の関係を中心に—」見玉一宏・小山哲春 (編) 『言語の創発と身体性 山梨正明教授退官記念論文集』161-173. 東京: ひつじ書房.
 山際彰 (2014) 「「最近」と「近日」」『国文学』98: 115-128. 関西大学国文学会.
 山際彰 (2017) 「「近々」の語誌」国語語彙史研究会 (編) 『国語語彙史の研究 三十六』305-320. 大阪: 和泉書院.

関連 Web サイト

- 地方議会会議録コーパスプロジェクト <http://local-politics.jp/> (2017年8月15日確認)
 コーパス検索アプリケーション『中納言』<https://chunagon.ninjal.ac.jp/auth/login> (2018年1月29日確認)
 現代日本語書き言葉均衡コーパス (通常版) BCCWJ-NT (『中納言』による利用) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search> (2018年1月29日確認)

例文出典 [本文中に登場した順]

神戸大学附属図書館 デジタルアーカイブ【新聞記事文庫】<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/> (2017年8月22日確認)

Twitterの高度な検索 <https://twitter.com/search-advanced?lang=ja> (2018年3月5日確認)

『聞蔵II ビジュアル』(朝日新聞記事データベース) 朝日新聞社

月のひつじ <http://d.hatena.ne.jp/yoshibey0219/> (2017年8月20日確認)

国会会議録検索システム <http://kokkai.ndl.go.jp/> (2017年8月20日確認)

稲城市議会 会議録の検索と閲覧 <http://asp.db-search.com/inagi-c/> (2017年8月24日確認)

白井市議会 会議録 <http://www.city.shiroi.chiba.dbsr.jp/index.php/> (2017年8月24日確認)

DiscussNetPremium 会議録検索 (薩摩川内市議会 会議録検索システム) <http://www.kaigiroku.net/kensaku/satsumasendai/satsumasendai.html> (2017年8月24日確認)

三島市議会 会議録検索システム <http://www.kaigiroku.net/kensaku/mishima/mishima.html> (2017年8月24日確認)

榎原市議会 会議録の検索と閲覧 <http://asp.db-search.com/kashihara-c/> (2017年8月24日確認)

《磯良の海》<https://hisamitsu.exblog.jp/23900931/> (2018年3月5日確認)

大竹秀幸・猿倉信彦 (2002)「磁場下における半導体からの高強度テラヘルツ電磁波発生と応用」『レーザー研究』30(7): 360-364

伊藤慎一郎 (2014)「生物の飛翔・遊泳時に発生する渦とその反作用の力」『数理解析研究所講究録』1900: 26-36

山陰百貨店一じげプロ別館一 <http://blog.zige.jp/gegegesanin/kiji/708749.html> (2018年3月5日確認)

帝国議会 会議録検索システム <http://teikokugikai-i.ndl.go.jp/> (2017年8月19日確認)

石川県議会 会議録検索システム 会議録の検索 <http://pref-ishikawa.gijiroku.com/voices/> (2018年3月12日確認)

二文字熟語 <https://ameblo.jp/kdoba2716/> (2017年8月28日確認)

資料 [本稿で使用した地方議会 会議録一覧 (丸括弧内数字は「端境」の用例数)]

北海道・東北 北海道 (5)【北海道, 札幌市, 旭川市, 函館市, 釧路市, 帯広市, 苫小牧市, 江別市, 北見市, 室蘭市, 岩三沢市, 千歳市, 北広島市, 恵庭市】, 青森県 (1)【青森県, 青森市, 弘前市, 八戸市】, 岩手県 (2)【岩手県, 盛岡市, 花巻市, 一関市, 奥州市, 北上市】, 秋田県 (1)【秋田県, 秋田市, 由利本荘市】, 山形県 (3)【山形県, 山形市, 鶴岡市, 酒田市, 東根市, 天童市】, 宮城県 (12)【宮城県, 仙台市, 石巻市, 気仙沼市, 大崎市, 登米市, 栗原市】, 福島県 (3)【福島県, 福島市, 郡山市, いわき市, 須賀川市, 伊達市, 白河市, 会津若松市, 南相馬市】

中部 新潟県 (7)【新潟県, 新潟市, 長岡市, 三条市, 新発田市, 上越市, 柏崎市, 燕市】, 山梨県 (0)【山梨県, 甲府市, 甲斐市】, 長野県 (4)【長野県, 長野市, 松本市, 上田市, 飯田市, 伊那市, 佐久市, 千曲市, 塩尻市, 茅野市, 安曇野市】, 静岡県 (1)【静岡市, 浜松市, 富士市, 沼津市, 磐田市, 三島市, 島田市, 焼津市, 掛川市, 藤枝市, 富士宮市, 御殿場市, 袋井市, 伊東市, 裾野市】, 富山県 (1)【富山県, 富山市, 高岡市, 射水市, 氷見市】, 石川県 (2)【石川県, 金沢市, 小松市, 白山市, 加賀市, 七尾市, 野々市市】, 岐阜県 (2)【岐阜県, 岐阜市, 大垣市, 各務原市, 多治見市, 高山市, 関市, 中津川市, 羽島市, 土岐市, 可児市, 美濃加茂市, 恵那市】, 愛知県 (10)【愛知県, 名古屋市, 豊橋市, 岡崎市, 春日井市, 豊田市, 一宮市, 豊川市, 西尾市, 刈谷市, 小牧市, 瀬戸市, 半田市, 安城市, 稲沢市, 東海市, あま市, 日進市, 尾張旭市, 北名古屋市, 大府市, 江南市, 蒲郡市, 知多市, 犬山市, 碧南市】, 福井県 (8)【福井県, 福井市, 越前市, 敦賀市, 鯖江市】

関東 茨城県 (3)【茨城県, 水戸市, 日立市, 土浦市, つくば市, 古河市, 神栖市, ひたちなか市,

取手市, 龍ヶ崎市, 筑西市】, 栃木県 (4) 【栃木県, 宇都宮市, 足利市, 栃木市, 日光市, 小山市, 鹿沼市, 那須塩原市, 下野市】, 群馬県 (6) 【群馬県, 前橋市, 高崎市, 桐生市, 渋川市, 館林市, 太田市】, 埼玉県 (4) 【さいたま市, 川越市, 熊谷市, 川口市, 所沢市, 越谷市, 上尾市, 春日部市, 狭山市, 行田市, 深谷市, 入間市, 戸田市, 朝霞市, 本庄市, 加須市, 久喜市, 鴻巣市, 日高市, 東松山市, 新座市, 八潮市, 三郷市, 坂戸市, ふじみ野市, 蕨市, 和光市, 鶴ヶ島市, 秩父市, 羽生市, 志木市, 桶川市, 蓮田市, 吉川市】, 千葉県 (7) 【千葉県, 千葉市, 松戸市, 市川市, 市原市, 八千代市, 佐倉市, 柏市, 野田市, 山武市, 木更津市, 成田市, 習志野市, 我孫子市, 流山市, 鎌ヶ谷市, 浦安市, 印西市, 香取市, 銚子市, 東金市, 君津市, 四街道市, 白井市, 袖ヶ浦市】, 東京都 (59) 【東京都, 八王子市, 府中市, 町田市, 調布市, 三鷹市, 小平市, 西東京市, 日野市, 多摩市, 武蔵野市, 立川市, 青梅市, 昭島市, 小金井市, 国分寺市, 国立市, 武蔵村山市, 稲城市, あきる野市, 東久留米市, 狛江市, 清瀬市, 福生市, 羽村市, 新宿区, 品川区, 杉並区, 練馬区, 足立区, 江戸川区, 板橋区, 世田谷区, 港区, 大田区, 文京区, 墨田区, 江東区, 渋谷区, 目黒区, 中野区, 豊島区, 荒川区, 葛飾区, 北区, 中央区, 台東区, 千代田区】, 神奈川県 (9) 【神奈川県, 横浜市, 川崎市, 相模原市, 横須賀市, 平塚市, 藤沢市, 茅ヶ崎市, 厚木市, 大和市, 小田原市, 鎌倉市, 秦野市, 伊勢原市, 座間市, 海老名市, 綾瀬市, 逗子市】

〔近畿〕滋賀県 (4) 【滋賀県, 大津市, 長浜市, 草津市, 東近江市, 甲賀市, 守山市, 彦根市, 近江八幡市, 栗東市, 湖南市, 高島市】, 三重県 (10) 【三重県, 津市, 四日市市, 鈴鹿市, 桑名市, 亀山市, 伊勢市, 伊賀市, 松阪市, 名張市, 志摩市】, 奈良県 (6) 【奈良県, 奈良市, 橿原市, 生駒市, 大和高田市, 天理市, 香芝市】, 京都府 (18) 【京都府, 京都市, 宇治市, 亀岡市, 舞鶴市, 木津川市, 京田辺市, 八幡市, 長岡京市, 城陽市, 福知山市, 向日市】, 大阪府 (19) 【大阪府, 大阪市, 堺市, 豊中市, 吹田市, 枚方市, 東大阪市, 和泉市, 寝屋川市, 富田林市, 八尾市, 茨木市, 高槻市, 守口市, 岸和田市, 池田市, 泉大津市, 泉佐野市, 河内長野市, 松原市, 箕面市, 柏原市, 羽曳野市, 門真市, 摂津市, 藤井寺市, 高石市, 阪南市, 大阪狭山市, 交野市, 四条畷市, 泉南市】, 和歌山県 (0) 【和歌山市, 田辺市, 海南市】, 兵庫県 (14) 【兵庫県, 神戸市, 姫路市, 尼崎市, 西宮市, 加古川市, 宝塚市, 明石市, 伊丹市, 川西市, 芦屋市, 豊岡市, 三木市, 高砂市, 三田市, 丹波市, 洲本市, たつの市, 小野市, 南あわじ市】

〔中国・四国〕香川県 (0) 【香川県, 高松市, 丸亀市, 坂出市, 観音寺市, さぬき市, 三豊市】, 徳島県 (1) 【徳島県, 徳島市, 阿南市, 鳴門市】, 高知県 (1) 【高知県, 高知市, 四万十市】, 愛媛県 (0) 【愛媛県, 松山市, 今治市, 四国中央市, 宇和島市】, 鳥取県 (0) 【鳥取県, 鳥取市, 米子市, 倉吉市】, 岡山県 (6) 【岡山県, 岡山市, 倉敷市, 津山市, 笠岡市, 玉野市, 総社市】, 島根県 (2) 【島根県, 松江市, 出雲市, 浜田市, 益田市】, 広島県 (0) 【広島県, 広島市, 呉市, 尾道市, 福山市, 三原市】, 山口県 (4) 【山口県, 山口市, 下関市, 宇部市, 岩国市, 周南市, 萩市, 光市, 下松市, 山陽小野田市】

〔九州・沖縄〕福岡県 (5) 【福岡県, 福岡市, 北九州市, 久留米市, 筑紫野市, 春日市, 大牟田市, 直方市, 田川市, 行橋市, 小郡市, 大野城市, 宗像市, 古賀市, 福津市, 糸島市】, 大分県 (0) 【大分県, 大分市, 別府市, 日田市, 中津市, 宇佐市】, 長崎県 (4) 【長崎県, 長崎市, 佐世保市,

大村市】，佐賀県（0）【佐賀県，佐賀市，唐津市，鳥栖市，伊万里市，小城市】，熊本県（0）【熊本県，熊本市，八代市，荒尾市，宇城市，天草市】，宮崎県（0）【宮崎県，宮崎市，都城市，延岡市，日南市，日向市】，鹿児島県（1）【鹿児島県，鹿児島市，霧島市，鹿屋市，出水市，薩摩川内市】，沖縄県（1）【沖縄県，那覇市，浦添市，沖縄市，うるま市，宜野湾市，名護市，糸満市】

A Possible Semantic Change from a Temporal to a Spatial Meaning: Changes in *bazakai*

YAMAGIWA Akira

Graduate Student, Kansai University / JSPS Research Fellow (DC2) / Project Collaborator, NINJAL

Abstract

This paper examines the possibility of semantic change from a temporal to a spatial meaning. While changes from a spatial to a temporal meaning are common, the word *bazakai* seems to be a rare example of the opposite. In order to determine whether this is true, examples of *bazakai* and *bazakaiki* (a synonym of *bazakai*) were investigated in databases of newspapers and proceedings. The results showed that, in most cases, *bazakai* was used with a temporal meaning in the Near-Modern era; examples of *bazakai* gradually decreased in frequency as usage of *bazakaiki* increased. Furthermore, *bazakai* is used in a different register in the Modern era than it was in the Near-Modern era. Based on these analyses, the *bazakai* from the Near-Modern era and the *bazakai* of the Modern era are actually different words with the same form. Thus, *bazakai* cannot be considered a true example of semantic change from a temporal to a spatial meaning.

Key words: *bazakai*, spatial meaning, temporal meaning, semantic change, proceedings